

2023 年春季 参加報告書

参加プログラム：トゥレーヌ学院

参加時の学年：1 年、学部：人文、学科：ヨーロッパ文化

今回 1 ヶ月の留学に参加した目的は、フランス語の勉強を始めて約 1 年間で学んだ語学でどれだけのことができるのか自分を試し、また、どれだけ足りないのか実感したかったからです。そして語学力を伸ばすことと言うのは大前提として、この留学を通して自分のフランス語で弱いところを見つけ、進級したあとの勉強に生かしたいと考えました。留学中の生活は、平日は学校があるけれど、週に 3 日は授業が午前で終わったので自由な時間がありました。すぐ家に帰ることもできたけれど色々な場所に行って色々なことに触れてみたいと思ったので街を散歩したりお店に入って昼食をとったりしました。どこかお店に入れば店員さんと話す機会があるし散歩すれば看板や道に出ているメニューなどで目にするフランス語の量も増えました。さらに、歩いていて日本との違いを見つけることも出来ました。土曜日は学内のツアーに申し込んだり自分たちで電車を予約して出かけました。電車の時間の関係で帰りが遅くなりそうな時はマダムに前日の夜までに伝えると日曜日の朝ごはんの時間を遅めてくれたりしました。日曜日はほとんどの店は閉まっているので家にいる時間が長かったです。土曜日にいないことがほとんどだったというもあり、日曜日の昼食はマダムと一緒にとるようにしていました。午後は宿題がある時はおわらせ、マダムは仕事をしていたので家でごろごろしているのももったいないと思い家が近い友達と近くの公園のカフェに行ったりしました。外に出れば必ずフランス語を話す機会があるので授業で学んだ言葉を実践できました。マダムは気遣ってゆっくり話してくれていたの聞き取りやすく、分からない単語も説明して教えてくれたので会話がしやすかったけれど、店員など外で会う人は会話が早く理解することが難しかったです。それでも私が話す遅いフランス語を話終わるまで待っていてくれて、みんな親切でした。

印象に残った点は、貧富の差が激しいことと想像していたよりもフランスは多国籍だということです。家の大きさもそれぞれであれば、ホームレスもたくさんいました。全身にブランドを身につけているような人は見なかったけれど、並んでいるお店もリーズナブルなお店から高級ブランドまで幅広くありました。ホームレスの人と店員らしき人が喧嘩をしているところも何度か遭遇し、街の治安は良いと感じたけれどそういう面ではあまり良くない面もあると思いました。また、街を歩いている人を見ていると外見から分かるほど様々な国籍の人がいました。日本にはない光景で印象に残っています。

この留学で、語学力に加えて物事に対する対応力が成長したと感じます。語学は、注文時や予約時、マダムや先生の口癖など同じフレーズや同じ会話を聞いたり話したりするうちにそのような場面ではスムーズに会話ができるようになりました。また、分からない単語があった時に相手の説明を理解する力や、日本のものを紹介して相手が知らなかったものだったり伝わらなかった時に自分の知っている単語で説明する力がついたと思います。何か分からないことや困った時があった時の対応力が成長した点だと感じます。

今後の目標はまずはボキャブラリーを増やすことです。話を聞いていて使っている文法や単語が聞き取れても意味が分からないことが多かったからです。そして自分が話す時には色々な言い回しができるようにしたいと思います。使いやすいフレーズを何度も使ったり同じ単語も何度も言ってしまうたりして他の言い方が身につかないからです。この留学で私は会話時に繰り返される単語を脳内で代名詞に変換することが苦手だということがわかったので、習ったことや自分のボキャブラリーを会話時に活用できるように今後意識して勉強しようと思います。そして、留学先での授業では習った文法で文を作る勉強が多かったけれど、6 月の仏検に向けて授業での勉強、家では授業の復習、だけではなく記述の練習もしていこうと思います。スペルミスがなくし、冠詞を確実にできるように今後勉強していこうと思います。